

整形外科臨床研修プログラム

一般目標（G I O）

外傷などの急性疾患と慢性疾患は、対応が根本的に異なるため、緊急処置が必要か、或いは待機し、上級医とのカンファレンスなどを通して計画的な治療が可能かどうかの判断力を身につける。部位別には、関節外科・脊椎外科・手の外科などがあり、特殊な領域として小児整形外科、骨・軟部腫瘍などがある。これらのすべてに対し、基本的な所見の取り方、カルテの記載方法、必要な検査の選択、的確な診断が身につくようにする。

行動目標（S B O）

1. 診療に対する態度
 - ① 患者を全人的に診療する態度を身につけ、信頼関係が築ける。
 - ② 医師及びコメディカルとコミュニケーションができ、チーム医療が実践できる。
 - ③ EBMに基づいた医療ができる。
 - ④ 保険医に必要な知識を身につける。
 - ⑤ 疾患の一面に捉われず、患者のQOL・アメニティなども配慮することができる。
2. 診察および診断
 - ① 患者との医療面接から病歴をとり、全身の身体所見をとり、それらを正確に記載できる。
 - ② 患者の解釈モデル、受診動機、受診行動を把握できる。
 - ③ 得られた患者の情報から、問題点を列挙したうえで、検査計画を立てることができる。
 - ④ 入院の適応を述べることができる。
 - ⑤ X-P、CT、MRIなどの検査オーダーおよび読影を行うことができる。
3. 治療法他
 - ① 処方箋、指示書、紹介状、返書の作成が適切に行える。
 - ② 各種診断書の作成ができる。
 - ③ 診療計画書が作成でき、患者に説明ができる。
 - ④ 以下の基本的手技を合併症も含め理解し、実施できる。
 - 1) 静脈路確保、採血ができる。
 - 2) 包帯法ができる。
 - 3) 簡単な切開・排膿ができる。
 - 4) 関節穿刺・関節内注入ができる
 - 5) 腰椎穿刺ができ、結果を解釈できる。
 - 6) 開放骨折の処置ができる
 - 7) 整形外科手術の助手ができる
 - 8) 局所麻酔ができる
 - 9) デブリードマンができる
 - 10) 皮膚縫合ができる
4. 経験すべき症例・病態・疾患
 - ① 腰痛・背部痛（必須項目、サマリー等の提出が必要）
 - ② 関節痛（必須項目、サマリー等の提出が必要）
 - ③ 歩行障害
 - ④ 四肢のしびれ
 - ⑤ 皮膚感染症
 - ⑥ 高エネルギー外傷・骨折（必須項目、サマリー等の提出が必要）
 - ⑦ 関節の脱臼、亜脱臼、捻挫、靭帯損傷
 - ⑧ 骨粗鬆症
 - ⑨ 関節リウマチ

⑩ 脊柱障害(腰椎椎間板ヘルニア、頰椎症など)

方 略 (LS)

1. オリエンテーション
ローテート開始時には、指導医と面談し、プログラム説明、自己紹介等を行なう。ローテート終了時には、評価表を記載しフィードバックを受ける。
2. 病棟研修
上級医とともに数例の症例を担当する。上級医の指導のもと、問診、診察、検査データの把握を行い治療計画立案に参加する。
3. 外来研修
上級医とともに、外来研修に当たる。
4. カンファレンス
 - ① 術前カンファレンス(月・木曜日 8:00~)
 - ② 画像診断カンファレンス(月~金曜日 8:30~)
 - ③ 抄読会(木曜日 8:20~)
 - ④ 病棟カンファレンス(火曜日 15:00~)
 - ⑤ リハビリカンファレンス(火曜日 16:30~)
5. 救急外来
整形外科救急疾患の患者が救急外来を受診した場合は、指導医とともに診察を行い、診断に必要な検査のオーダーとプライマリケアを行う。診断に基づき入院の必要性、緊急手術の必要性を判断する。
6. 講義
ローテート期間中に、関節リウマチと外傷について指導医からレクチャーを受ける。
7. 自主学習
自主学習を行う。図書館の書籍、インターネット、DVDも活用して知識、手技、態度を学ぶ。

評価 (EV)

1. 評価は、観察記録とし、研修医および指導医が1か月毎に行う。
2. SBOs 1、2-①~③、3-①~③に関しては、プログラム全体の評価の該当する項目で評価する。
3. 基本的手技・経験すべき症例・病態・疾患については、対応する専用の用紙で評価を行う。

研修スケジュール

<整形外科の週間予定表>

	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
月	画像診断カンファレンス・術前カンファレンス 外来診察・病棟回診・救急対応				麻酔・手術助手					
火	画像診断カンファレンス 外来診察・病棟回診・救急対応				検査・特殊外来			リハビリカンファレンス		
水	画像診断カンファレンス 外来診察・病棟回診・救急対応				麻酔・手術助手					
木	画像診断カンファレンス・術前カンファレンス・抄読会 外来診察・病棟回診・救急対応				麻酔・手術助手					
金	画像診断カンファレンス 外来診察・病棟回診・救急対応				麻酔・手術助手					